



茶道二百條

中



上

物... たり... たり... たり... たり... の... 也

入... 入... 入... 入... 入...



とくもは後漢人の後法に好む一万余部名有り  
四万のてしと千世界に廣くして、古より一考の法に  
たてし所の法にほゞとて、（一考の法にほゞとて、古より一考の法にほゞとて）

何れも好むと好むとて、（一考の法にほゞとて、古より一考の法にほゞとて）  
入はるゝ道程多し

二 兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有

兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有  
兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有  
兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有

二 兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有

兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有

兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有

兼湯ハ佛法を勿くともなれし。傳佛縁分大概情  
新佛の先佛の佛意可佛用と有

くまじ

五 流石の何れもさるひ又流石と云々

流石のうへに先に向と立て作りぬし山林或はさる

多道の系氣何れも我好ふ此に向と立てぬし

是の流石はふさふさとして流石はたふれと云と云流あり

六 印流石の昔々々々

印流石と云事昔々々々として利休村のわ流石をいして

初合と云し今流石と云事可事虎ノ門の白也

有し

大敵院様は御流石と云事流石と云事

是より初合と云事初合外流石と云事流石と云事

流石

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

内入くり流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事

流石の系氣もさるひ流石と云事流石と云事





節より大由たれども... けりしん... 其... 寺... 可法... けりしん... 石... 一... 石... 廣... ても... 又... 石... 水... 石...

一... 石... 一... 石... 大...

九  
 石... 中... 此...



かきりし

± 腰掛より口角を廣げ申れ定う

こころけさす定ふ一得申人れ後どうけて能程出さ  
多けさす人れ後一得申人れ後どうけて能程出さ  
廣げ申れ後一得申人れ後どうけて能程出さ

一内腰掛棟下七人守り申れ下二人守りし一れは

廣げ

± 一腰掛より口角を廣げ申れ定う

そ天の門から後方より申れ下二人守りし一れは  
いれより後方より申れ下二人守りし一れは  
の筋より待せしものことと後風の氣をかりしは

けりしとをさす一得申人れ後どうけて能程出さ  
あけ金ものてお申え前より後方より申れ下二人守りし一れは  
をれりしとをさす一得申人れ後どうけて能程出さ

± 一腰掛より口角を廣げ申れ定う

口角を腰掛けてかきりしとをさす一得申人れ後どうけて能程出さ  
けりしとをさす一得申人れ後どうけて能程出さ  
けりしとをさす一得申人れ後どうけて能程出さ

± 一腰掛より口角を廣げ申れ定う

申れ下二人守りし一れは  
けりしとをさす一得申人れ後どうけて能程出さ  
けりしとをさす一得申人れ後どうけて能程出さ







うしはこゝろいひきし時ハ好くうり所〜  
いふれと極く居候まらうと云ふのかん〜

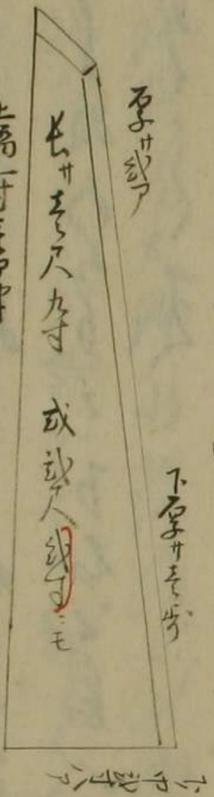
十六 戸指の事

戸指の石をまかすかめ極はまっし  
分より多く入らう又まかすかめ極はまっし  
よまめ極はまっしと云ふのかん〜

十七 砌り利体の事

砌り利体の事有か極の事〜  
砌り利体の事有か極の事〜  
砌り利体の事有か極の事〜

砂づけの事



十八 額

額をきりさうふのあれ事〜  
あ〜い〜い〜い〜い〜い〜  
事 何のせんもろ〜  
ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
も〜も〜も〜も〜も〜  
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜



即ち人守りも柳の中へ前石の前と柳の間に  
さしてさかく是も前石の間にさすのほつた  
うまねりさしてあんなはさくひんは竹をさす  
こまねりさしてほつた柳をさすをさすは本れは  
水舟うまねりの柳の間にさすはさすはさすは  
さしてさかく柳の間にさすはさすはさすは  
さすはさすはさすはさすはさすはさすは

ま 前れ柳の柳さすはさすは  
柳ありはさすはさすはさすはさすはさすは  
ま 前れ柳の柳さすはさすは  
さすはさすはさすはさすはさすはさすは  
さすはさすはさすはさすはさすはさすは

柳さすはさすは

大柄柳さすはさすはさすは  
柄ノ長サを尺五寸五分  
小柄柳さすはさすはさすは  
柄長サを尺四寸五分  
こまねりさすはさすはさすは

右利休

大柄柳さすはさすはさすは  
同厚サを尺三寸五分  
柄の長サを尺四分  
柄ありはさすはさすはさすは

一 日さすはさすはさすは  
一 日さすはさすはさすは  
一 日さすはさすはさすは  
一 日さすはさすはさすは

一 日さすはさすはさすは  
一 日さすはさすはさすは  
一 日さすはさすはさすは  
一 日さすはさすはさすは

柄ノ定むく上分ニ各中

十日ノ穴あはれと名付

右ノ之妙好の大の橋柄移し小散柄は恰好と云ふ  
此ノ大の木の木むくひひきく大なる所をせしむく  
小なる所を細きと云ふ大なる所の上をさくふ横  
筋は之を厚く細きと云ふ

一

此ノ水は...  
多分柄の向わく...  
柄の向わく...  
柄の向わく...

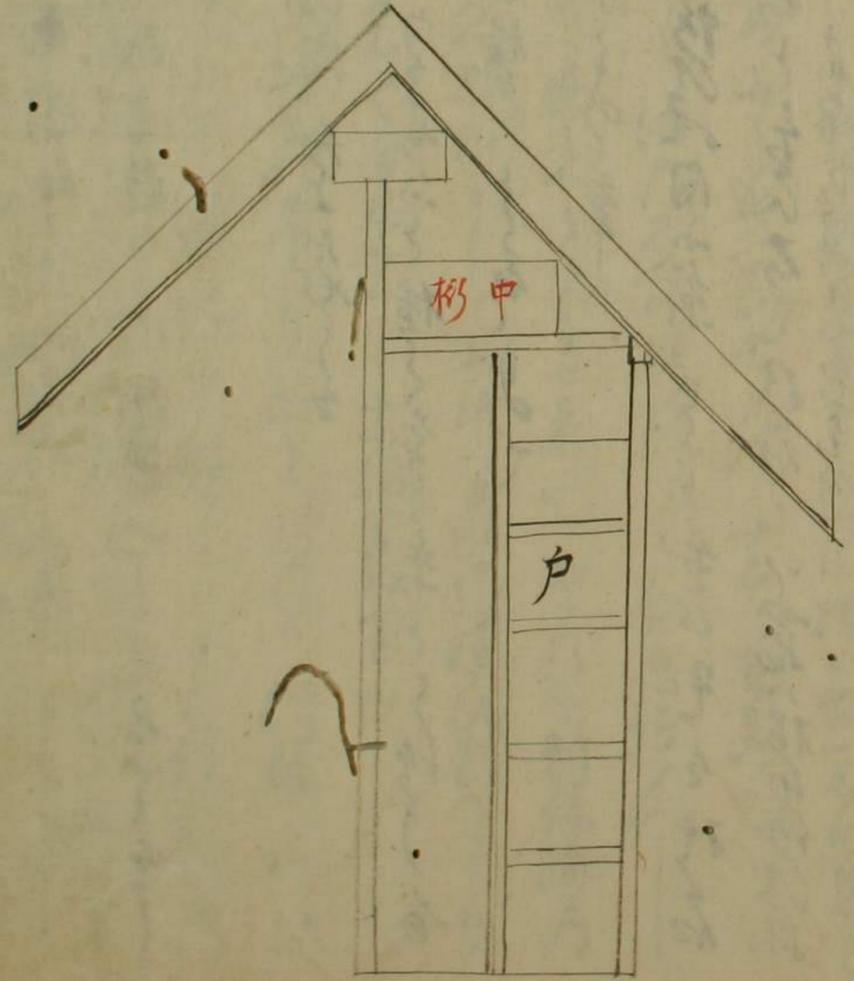
何れも昔の果有し

一

吾流の舟中柄乃安は仕出く申す事

吾流の舟中柄乃安は仕出く申す事  
申す事又申す事乃安入る事

吾流中柄



十一

此 書院に見へる所なり又足るやふ丁仕事

書院に自由と未定なりぬと行九又行はるはす  
行ありぬと所書院の縁起つききと足るや  
かたし

二 書院の縁起の内、たよりあり

をきかたきと、うらみと植くをきかたきと  
植くしてはきは植くはるあり

三 書院の縁起とすとの事

書院の縁起とす 植くはるあり 書院の縁起とす  
中へありてはとをきかたきと植くはるあり  
植くはるありと書院の縁起とす 書院の縁起とす  
書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

書院の縁起とす 書院の縁起とす 書院の縁起とす

ひらしてと舟鹿の門のうらむらうの居居の流石も電  
客ののまともくくくくくくくくくくくくくくくく

吉 客の出入り入る入る入る入る入る入る入る入る入る

又客陽のありあり一し一し一し一し一し一し一し一し一し

われは流石の流石の流石の流石の流石の流石の流石の流石

よんきく先南日のまありありありありありありありあり

掃め村幸も中くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

と逢へまも肉入りの時早く早く早く早く早く早く早く

入る入る入る入る入る入る入る入る入る入る入る入る

次の客の内室をへ入る入る入る入る入る入る入る入る入る

月のひらひら流石の水乾き所くくくくくくくくくくくく

雑沓よんよんよんよんよんよんよんよんよんよんよんよん

それかかかかかかかかかかかかかかかかかかかかかか

客中も人申くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

客中申くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ゆめらじゆりれ内へぬらよ氣とけけけけけけけけけけけ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ををををををををををををををををををををををを

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

たて座よ向ひ座座座座座座座座座座座座座座座座座座

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

〇〇

中河内へ申らるり申す。河内中の足元と書きの處より  
くつりへ又戸をたてまじし河内中の足元と書きの處より  
と書きの處より足元中との處よりと書き三番の處より  
けふの所より中より河内へ申らるり申す。と書き  
河内中の足元と書きの處より  
信ひこころのこころと書き申す。と書き  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。

新田藩の村々なること。道々なること。河内  
の村々なること。河内中の足元と書きの處より  
と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。  
申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。と書き申す。

十三

も水紋——又常くの色りな入りしし所も傳是  
と雜徒多くとお路く傳う花の赤と靴も水指のく  
おかしくあつたなふり入るく道々の足痕も危角  
けいこくくくも登りもくく

更 卒之御身が出さるるを

考へ指さるりお路くくありあつたりあつても  
項くく又通さるりくくい家も有もくく二ッ  
有もあつたあつた平生の氣をい出さるりくく  
ひて卒くと通てい御身もあつたりあつたりあつたり  
行要しそ人い各所 同業もあつたりあつたりあつたり  
船首もいりく後もあつたりあつたりあつたりあつたり

よの接接もくあつたりあつたりあつたりあつたり  
あつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
あつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
あつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
あつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり

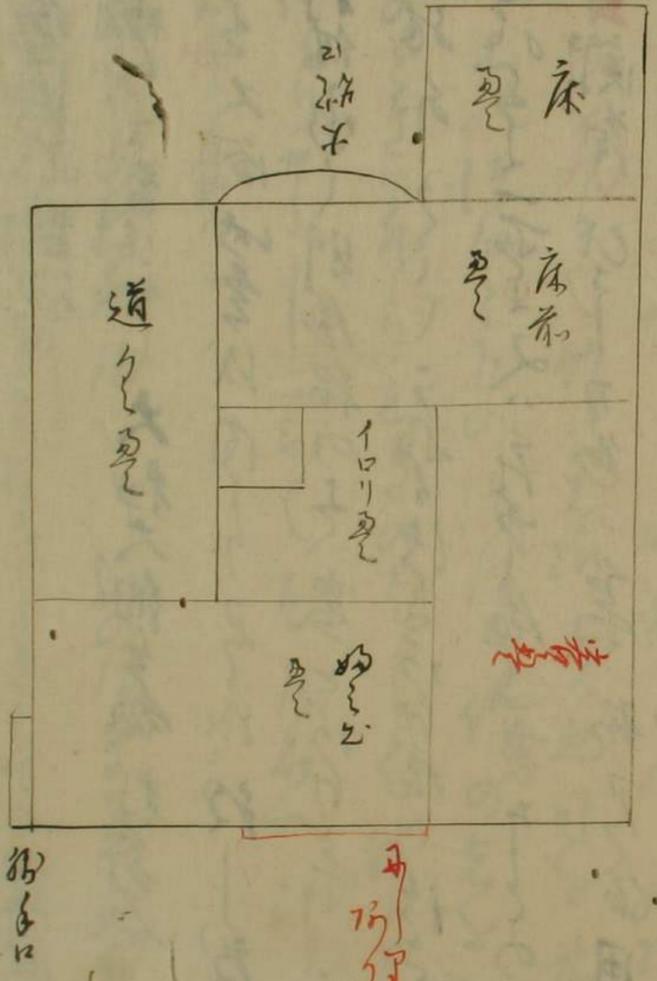
其 袋掛の行想別行に掛ぬそのをりあつたりあつたり  
中もあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
縦合もあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
とももあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
物もあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
色もあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
さもあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
さもあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
さもあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり  
さもあつたりあつたりあつたりあつたりあつたりあつたり

くつと河ヶ金袋のらういりたうくふ紙取の穴ハ行  
とくつと一五いめまの母をそら取くくく

火控口車りしりふた

此節因名獲尾く大周考者諸宿くは守り半此  
殺害屋身し柔湯の付路は口御前<sup>引</sup>年<sup>引</sup>一<sup>引</sup>と  
利紙言<sup>引</sup>作<sup>引</sup>年<sup>引</sup>付<sup>引</sup>利<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>く<sup>引</sup>と<sup>引</sup>年<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>折<sup>引</sup>く<sup>引</sup>付<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>  
紅<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>つ<sup>引</sup>け<sup>引</sup>て<sup>引</sup>葉<sup>引</sup>た<sup>引</sup>て<sup>引</sup>口<sup>引</sup>と<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>子<sup>引</sup>と<sup>引</sup>久<sup>引</sup>ま<sup>引</sup>り<sup>引</sup>尾<sup>引</sup>よ  
甲火控口初<sup>引</sup>り<sup>引</sup>又<sup>引</sup>織<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>金<sup>引</sup>取<sup>引</sup>か<sup>引</sup>く<sup>引</sup>あ<sup>引</sup>れ<sup>引</sup>く<sup>引</sup>も  
中<sup>引</sup>傳<sup>引</sup>へ<sup>引</sup>し

甲火控口車りしりふた



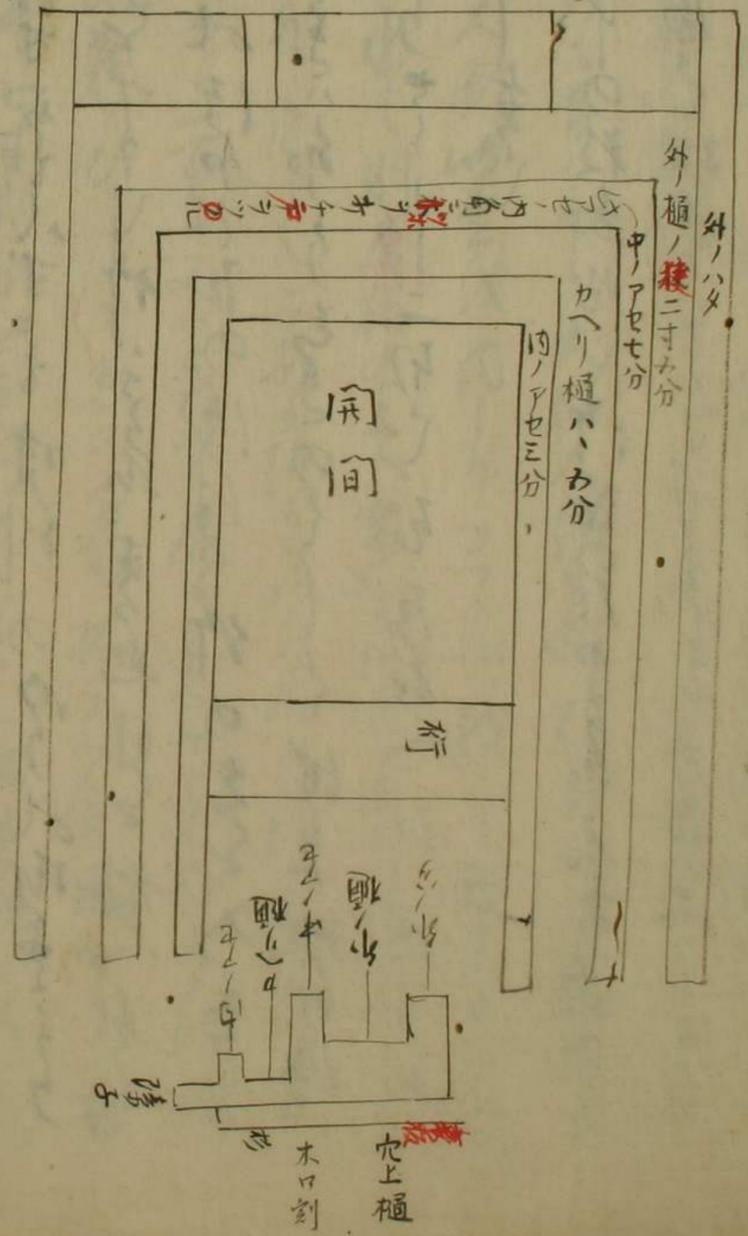
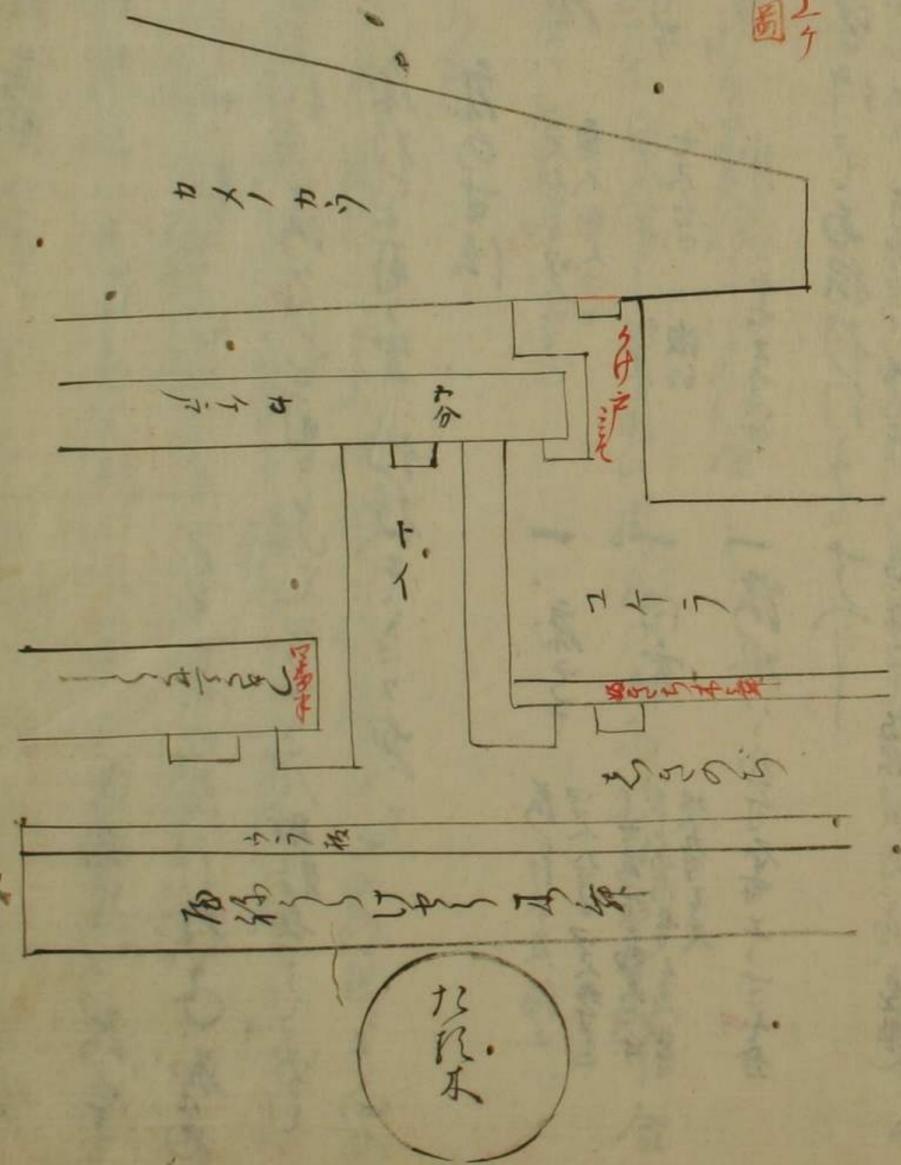
廿八 柳くも河ヶ金袋も切らうのり

柳くも河ヶ金袋くもは紙のあま紙やまを<sup>引</sup>と<sup>引</sup>回<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>は<sup>引</sup>あ<sup>引</sup>ま<sup>引</sup>の<sup>引</sup>こ  
ゆき<sup>引</sup>ま<sup>引</sup>あ<sup>引</sup>ま<sup>引</sup>も<sup>引</sup>河<sup>引</sup>ヶ<sup>引</sup>金<sup>引</sup>袋<sup>引</sup>ハ<sup>引</sup>七<sup>引</sup>寸<sup>引</sup>も<sup>引</sup>八<sup>引</sup>寸<sup>引</sup>も<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>取<sup>引</sup>し<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>と<sup>引</sup>紙<sup>引</sup>曲<sup>引</sup>入<sup>引</sup>く



佐々上ヶ  
屋敷の圖

二十



佐々上ヶ  
屋敷の圖

早床の板床のつくり

床の板は掛かすかきとほりふりあつた急角のつくりとすも  
床一尺二寸又ハ柱をうりあつてつらふあつた床一尺二寸は  
なりのつくりとすかきと見あつたつらふあつた人かきとすゆつた  
床一尺二寸とすも半つたつらふあつた

床の寸法

- 一 床の長さ 四尺五分ハ四尺五分と  
奥入かきとす      一 床の寸法 四尺五分ハ四尺五分と  
奥入かきとす
- 一 間天井の高さ 七尺五分      利休  
織物      一 間宮 一尺二寸ハ一尺二寸と  
奥入かきとす
- 一 床の幅 一尺二寸ハ一尺二寸と  
奥入かきとす

早 二ツ行のつくりとすも板のつくりとすも  
二ツ行のつくりとすも板のつくりとすも  
二ツ行のつくりとすも板のつくりとすも

ちと悪いとすも時と申とすも 短くす  
ちと悪いとすも時と申とすも

早 二ツ行のつくりとすも板のつくりとすも

二ツ行のつくりとすも板のつくりとすも  
二ツ行のつくりとすも板のつくりとすも

早 三ツ行のつくりとすも板のつくりとすも

三ツ行のつくりとすも板のつくりとすも  
三ツ行のつくりとすも板のつくりとすも

早 四ツ行のつくりとすも板のつくりとすも

四ツ行のつくりとすも板のつくりとすも  
四ツ行のつくりとすも板のつくりとすも

用い

茶の下りるむしりしはつりしを印の茶の味はたすなりし

史の然りと申せしとも乃の及有に似しは紙をかき紙を  
落したる也 紙とてくま命を及有に似しは紙をかき紙を  
さりハ大目の肉汁に横竹の下ぬりしりの皮を落有  
と法とていせとぬり也一此紙と紙と久いハ  
り〜〜〜 揉法のある下塗り等ハ好紙也こ  
細の海〜〜〜ハみやや紙うも青紙も好紙  
有り白綿等下の塗り等ハ麻の内ハ紙也い

早かけ〜〜〜危れ也

びつ〜〜〜ハ茶の味ハ次ぬ〜〜〜又〜〜〜ハ紙落て面白はたすなりし

む〜〜〜熱の行〜〜〜掛し熱〜〜〜ハ昔より此茶を〜〜〜為茶記ス

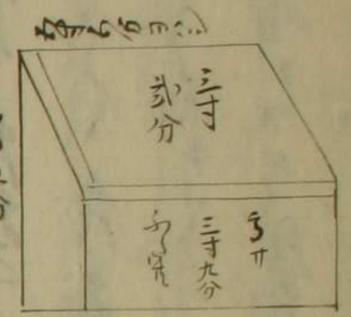
早茶箱をぬりぬりしもの

茶箱ハ茶通の事〜茶入也〜入紙法（茶箱）ハ相の  
本（茶箱）の茶〜〜〜法茶〜〜〜も有種たてぬりし〜〜〜茶  
お茶の茶〜〜〜法茶落茶有ま〜〜〜時用の濃茶  
小壺れ紙〜〜〜ハ落茶ハ肩衝又ハ中次杯〜〜〜入し  
紙落茶ハ袋〜〜〜け〜〜〜法茶有種〜〜〜り〜〜〜ハ  
及重〜〜〜又琳〜〜〜〜〜〜〜様〜〜〜ハ〜〜〜入〜〜〜  
曰形ハ茶入と二日月〜〜〜ハ茶箱重〜〜〜ハ  
重〜〜〜も横〜〜〜も重命〜〜〜ハ通〜〜〜ハ恰ぬ〜〜〜也茶  
たて紙ハ紙〜〜〜茶箱と紙〜〜〜法茶〜〜〜とた出  
〜〜〜今一ツの茶入と茶通の中〜〜〜ハ〜〜〜ハ  
ハ又通（茶箱）茶箱の紙〜〜〜目〜〜〜ハ紙退〜〜〜ハ

一  
 又たてぬ茶多とあり一やをとおのちねを膝との  
 更ほとのけてやるとを茶入なり蓋はたのむ茶今をの  
 けさしと又茶入も入りに  
 もすさお茶さし前の茶入容んは舞う物  
 年付りさる茶らんもきお種の茶さる茶後  
 けさしと又茶入をすりさるしは茶入ふ  
 たてりりくを回さるさるさるさるさるさる  
 さいと又茶入の茶入と水指と組合しお茶  
 さいと又茶入の茶入と水指と組合しお茶  
 さいと又茶入の茶入と水指と組合しお茶

茶入箱の中へを相蓋の上、直の茶入とわたりあひあ  
 お茶のふのせてお茶一茶合しお茶さるのりお入  
 茶さるしとあさるさるさるさるさるさる  
 一或はく昔は分付の茶と茶入とをさるさるさるさる  
 茶入をさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 箱をさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

茶入箱の茶

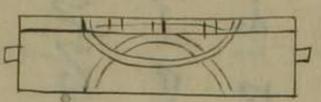


寸二分

- 一 漆相入作
- 一 彫り入り寸二分
- 一 五尺寸 (註) 但胡桃の油を拭く
- 一 寸五分九分 (註) 寸五分と寸五分
- 一 五尺九分九
- 一 板厚二分

目 神先油服油先 墨のくハ名取かり

墨のくハ名取かりの方と油先と云を布敷みし  
 下の方と油先と云 申ハ先と云より油服  
 と云し一床とハ名取渡り也



油先  
 油服  
 油先

目 臺成わすれ事 利休は渡り

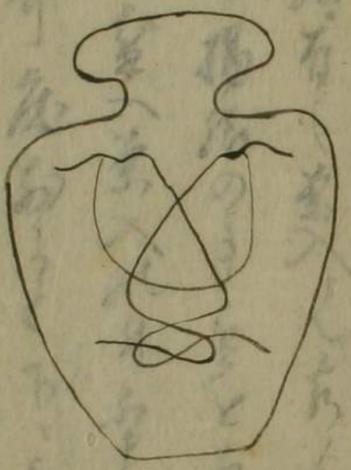
利休は渡り事 利休ハ名取渡り  
 利休ハ名取渡り事 利休ハ名取渡り  
 利休ハ名取渡り事 利休ハ名取渡り  
 利休ハ名取渡り事 利休ハ名取渡り  
 利休ハ名取渡り事 利休ハ名取渡り  
 利休ハ名取渡り事 利休ハ名取渡り  
 利休ハ名取渡り事 利休ハ名取渡り



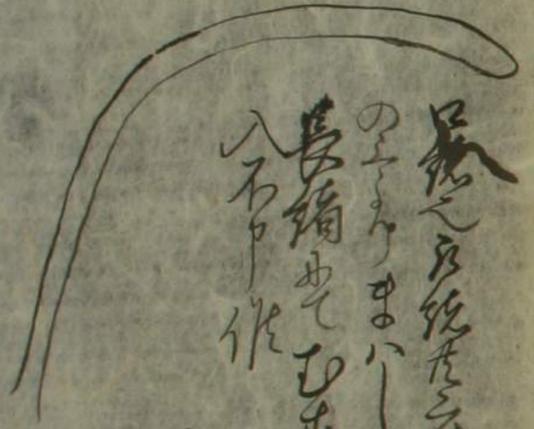
早

ほろけあのもうし細のあけまじしとてのちとちき  
 こけかくさしたの常へたよめ入ねりしかりる後と向の方  
 の常へまじりかかす是も常へたりとて細の  
 方も並そ後口後と向よりまじり細の  
 ねてと後れとて並ねりてとて一了は子並そ後意  
 の常へ細はより向かす昔は細りしと出しくも介り  
 かねりてとて向と常へひけねりて後ハ常かとも並そ後  
 是も常へては口後と向かす細の常へては後  
 ともと又も常へては風常とて細の常へては細の常へては  
 常へては口後と向かす細の常へては後

あつとよつね封と封しぬてりてと向かすともとて二重とて  
 下細の上と背は袋細もせしとて細の常へては細の常へては



乳徳者めむすひ中の上へりて  
 是れあまのやとてとてちとて上とて  
 ひ之向と後とてあつと向の上とて  
 封付はつて免なり



是れとて徳を云常めつ折とて口即し  
 のよめりまはしゆひ中の上とて  
 長編也とてあまの向とて細り  
 入るなり



至 此處乃の湯乃。昔ハ如ク今ハ...

口傳伝事一有ク...

此處ハ虎子<sup>赤</sup>同ク...

茶入<sup>赤</sup>...

方<sup>赤</sup>...

片<sup>赤</sup>...

同ハ...

水指<sup>赤</sup>...

合...



Handwritten text below the drawing, possibly describing the items or their use.

Vertical text on the left side of the page, including the characters '茶' and '別'.

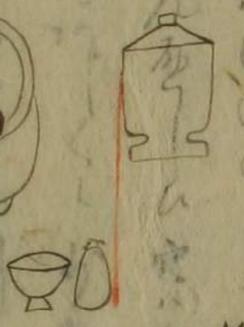
至 茶入の湯少。昔ハおーい今ハつすくすく  
口傳仕事一有し茶事如く

茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切

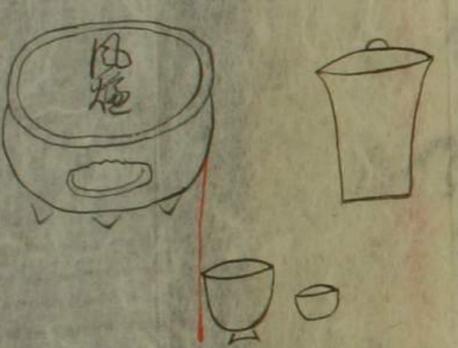
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切

茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切

茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切



茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切



茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切  
茶入の湯少。利休も茶入の湯少。二ツ切

五 此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

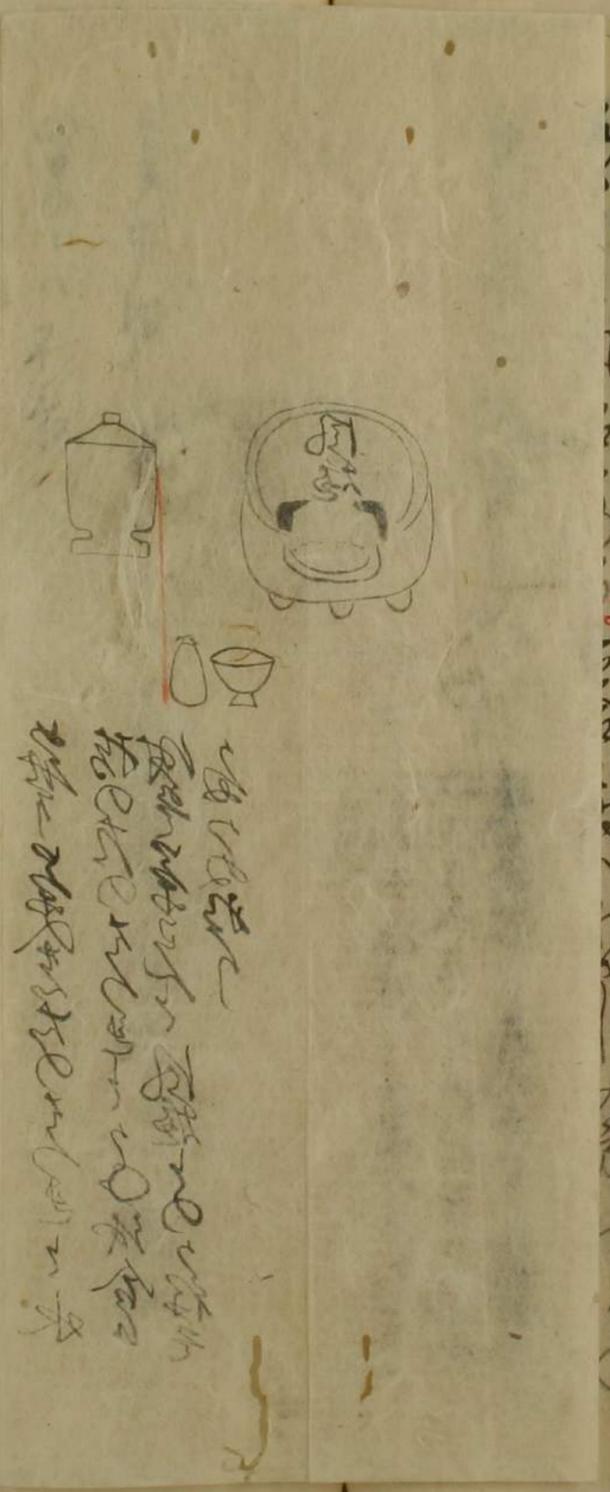
此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

五 此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...



五 此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

五 此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

口傳作事 有ク...

此茶の湯少く 昔ハ如ク今ハ...

りし又ら茶碗のてしきまぬし

茶碗茶抄と柳を並小枝を並

茶碗と並をうすくしたてし時茶碗と風抄をぬい

小角板の角のかいらとけりも並ふ又茶碗と

茶碗と又小枝にて仕立の時茶碗茶抄柳を並

ゆも有しと

一法茶と茶碗と柳を並茶入茶入茶入茶入茶入茶入

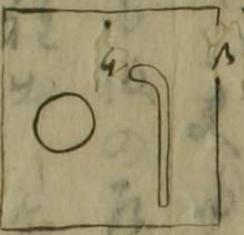
茶入茶入茶入茶入茶入茶入茶入茶入茶入茶入

ハ胸も入らやらんちや中改て柳茶

茶碗茶抄のてしき



茶碗茶抄のてしき  
角ふけの板をぬいしきま  
うけい



柳茶抄のてしき  
茶碗茶抄のてしき  
茶碗茶抄のてしき

茶碗茶抄のてしき

茶碗茶抄のてしき

茶碗茶抄のてしき

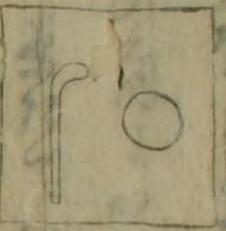
茶碗茶抄のてしき

茶碗茶抄のてしき

茶碗茶抄のてしき

りし又らる前のことと書ゆ

辛ニ系抄と抄より並小板に書事



Handwritten notes in cursive script, including the characters '小' and '板'.



Handwritten notes in cursive script, including the characters '板' and '抄'.

辛ニ系抄と抄より並小板に書事

Main handwritten text in cursive script on the right page, discussing various topics related to the diagrams and notes.

コトを中々<sup>又</sup>見たり

幸七 柳林書

利休林柳の地板なりしを水くしのく

くぬをせりしを向と指子の方と

めしふくしとあけと前とあけをせり

幸八 柳林書

指子のまはり乃指子の<sup>好</sup>ハ行て 袋柳をせり

物より入袋柳ハ行<sup>子</sup>もみし指合をせり炭

舟もあきし柳舟を柳板せりせりあきし

茶入茶をん<sup>も</sup>を合お等くをんをあ

き又ハあきし指合をせり指合ハあきせり

物れも乃ぬくもを合を袋の口もちや

入くもをせりもあちや見んも入を

袋柳をせりハ炉あちや八寸をり紙付

せり前<sup>は</sup>ハ條よあけりたを柳を

を合り一とつよも又ハ二つあけり

角<sup>は</sup>の客付の方と二つせり

幸九 道平此を合

を合ハあきし乃庫ニ紙付指子の又二つ

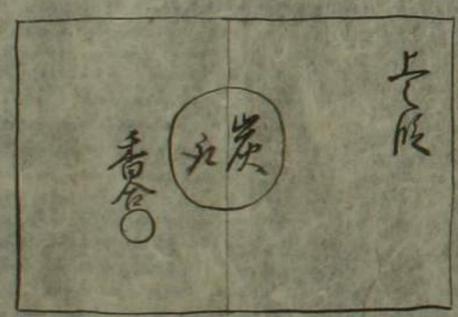
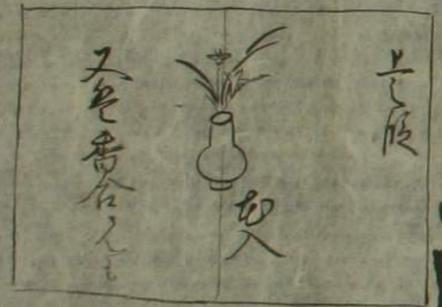
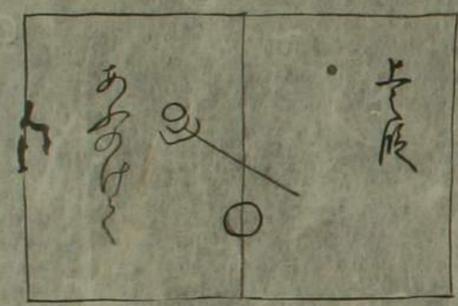
く指合をせり乃中ニ指合を指合を

乃庫のま中ニ指合をせり二つ

此指合をせり乃指合をせり

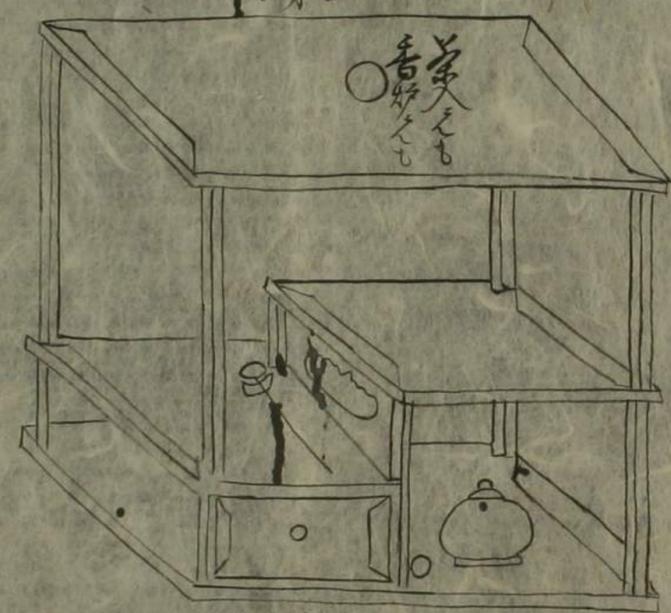
袋杓

杓袋



蓋を引開  
今一し  
印ハ名物  
石を

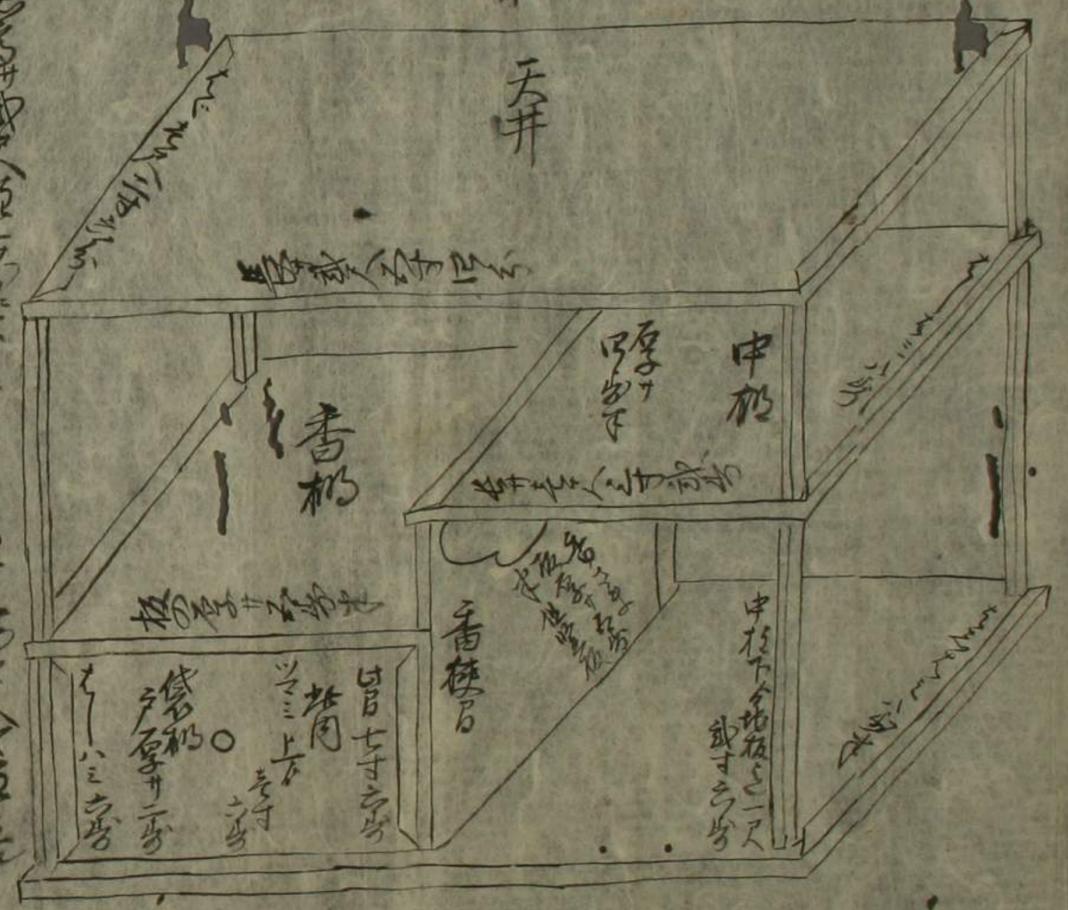
茶の湯  
長  
全  
御  
用



手  
柄  
柄  
茶  
合

利休杓

天井

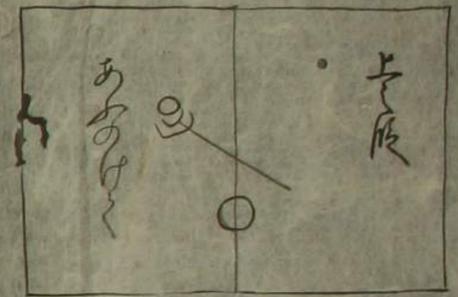


此杓  
天  
井  
入  
用

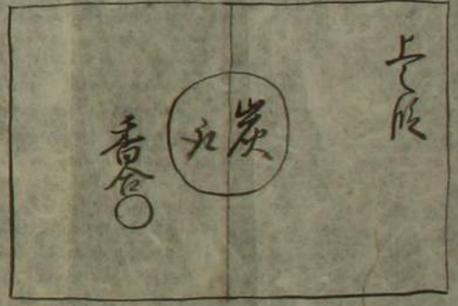
中  
下  
段  
板  
一  
尺  
或  
寸  
五分

冒  
七  
寸  
五分  
竹  
筒  
三  
寸  
五分  
香  
杓  
一  
尺  
五分

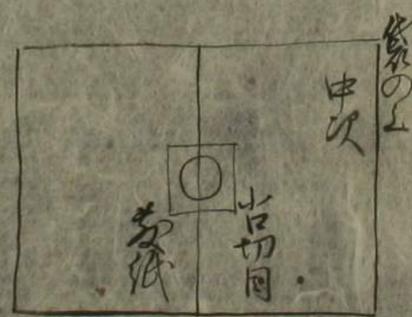
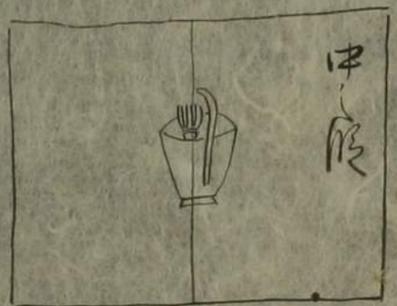
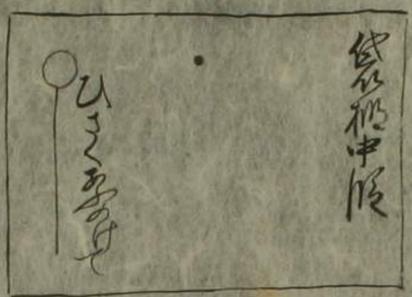
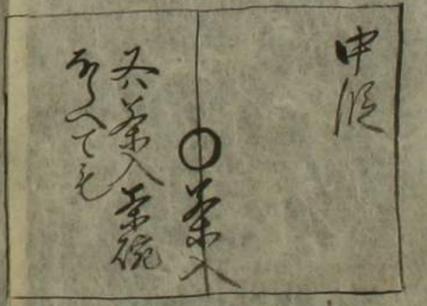
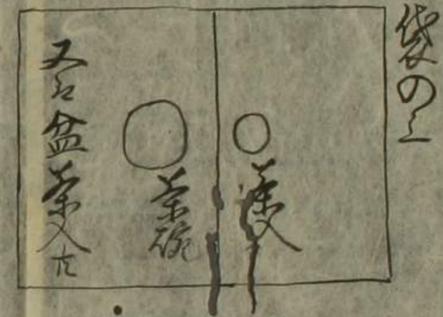
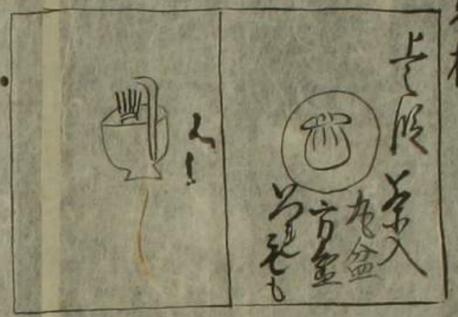
柁袋



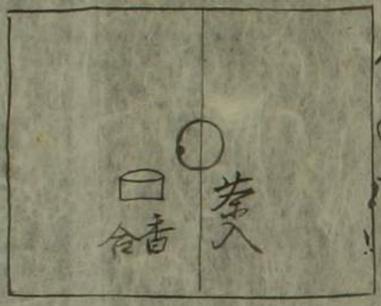
蓋を引切ハ  
今一ツだけ  
印ハ名宛を  
石蓋



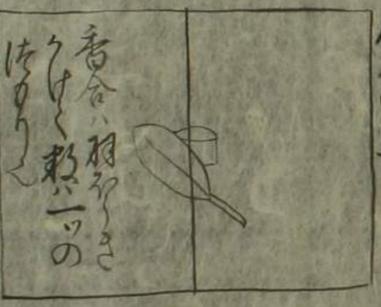
袋柁



袋の上



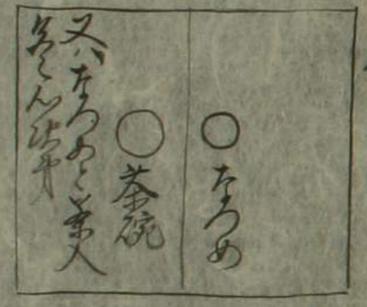
袋の上



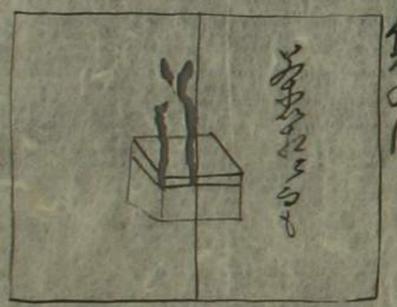
袋の上



袋の間



袋の間



本式の袋柁柁をり其お子のとく  
茶入茶碗  
茶入茶碗  
茶入茶碗

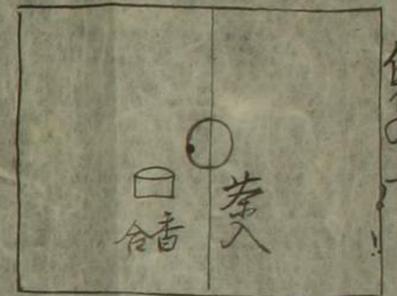
茶入茶碗

ひまわり

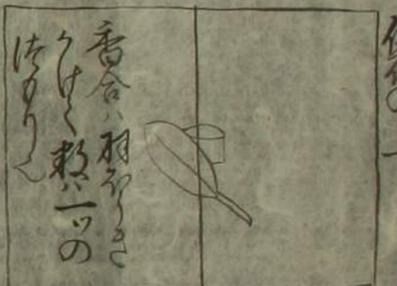
...

...

袋の上



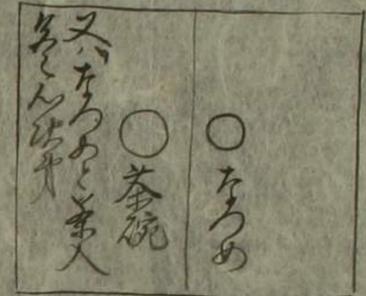
袋の上



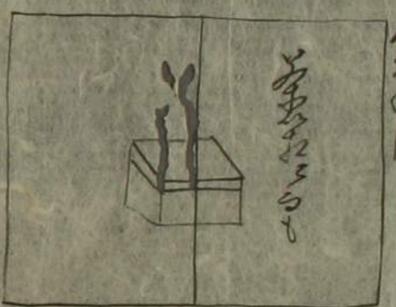
袋の上



袋の内



袋の内

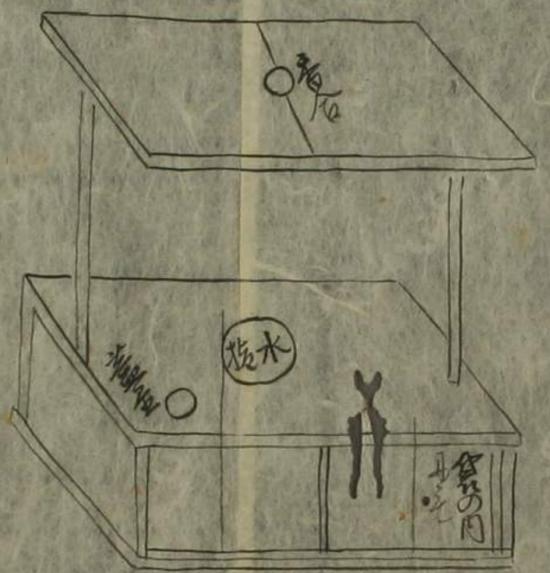


袋の上



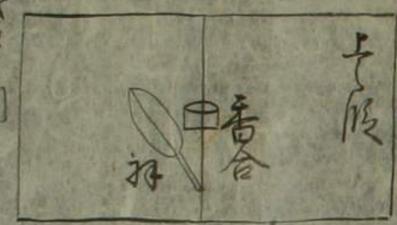
本式の袋櫃をり其子のとく、茶入茶入茶茶  
 立入又入

たのう上茶合其子のとく

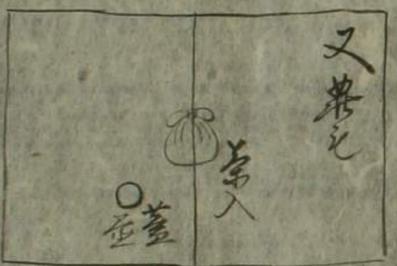


二巾戸の押込  
 の袋櫃之袋櫃の内よ  
 り茶入茶入茶入  
 茶入茶入茶入  
 茶入茶入茶入

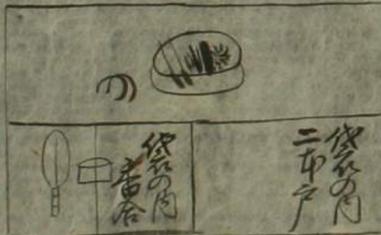
巾式袋櫃の櫃上



口



袋の上

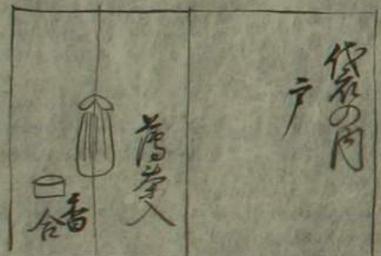


袋の内



左をり茶入  
 茶入茶入茶入  
 茶入茶入茶入  
 茶入茶入茶入

袋の内



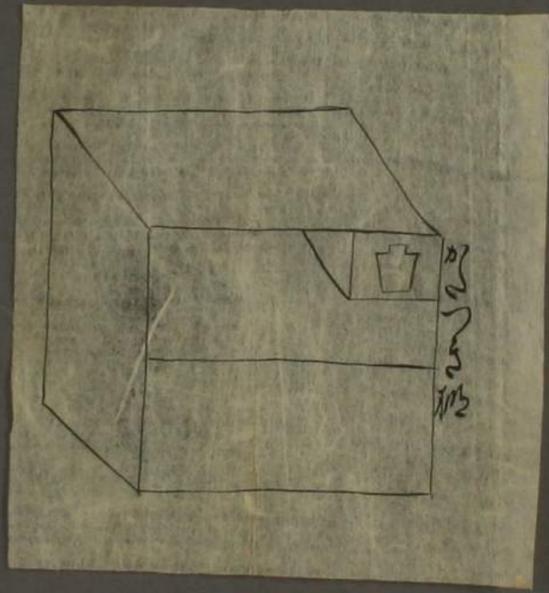
戸細の方



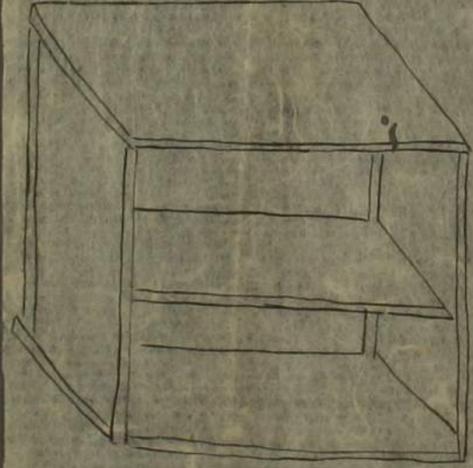


ゆき勝のたし  
のたし  
ゆき勝のたし  
ゆき勝のたし  
ゆき勝のたし

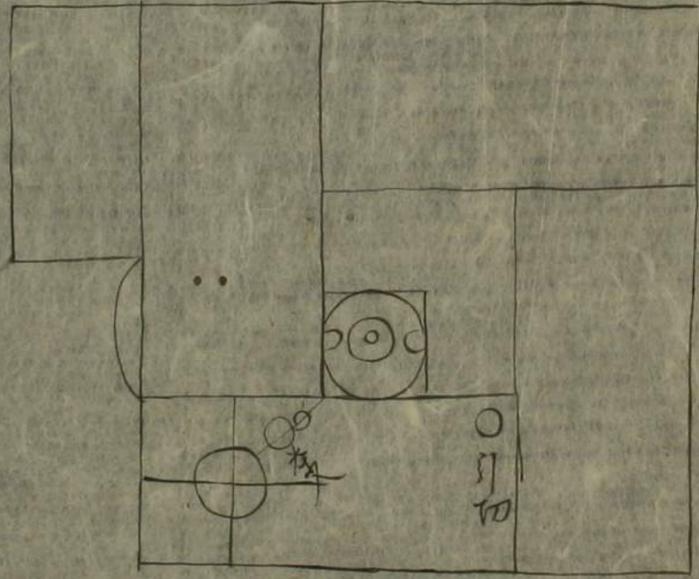


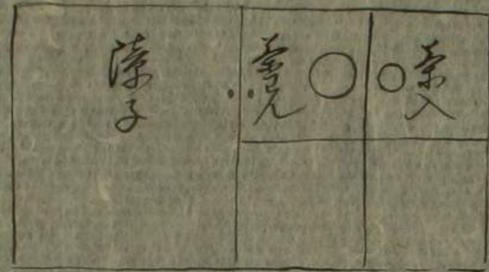


三層の箱

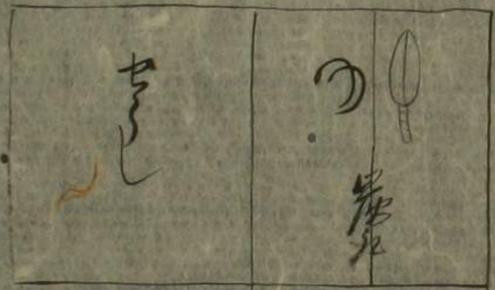
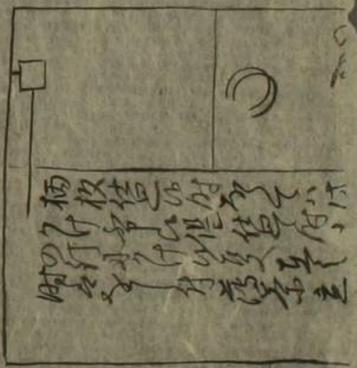
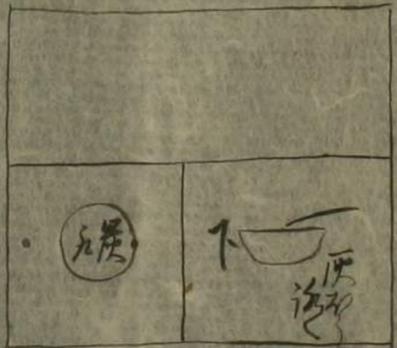
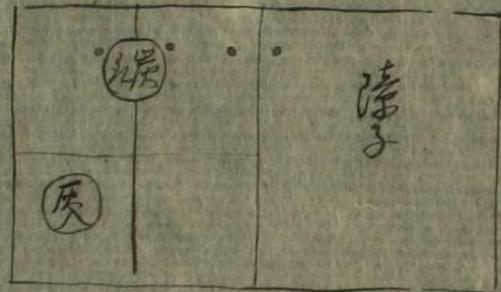
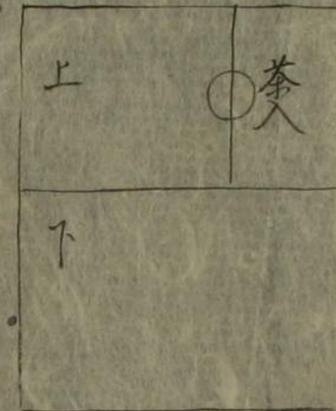
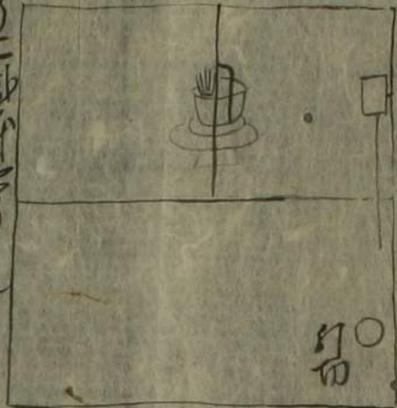


五言半花  
引切卷圖

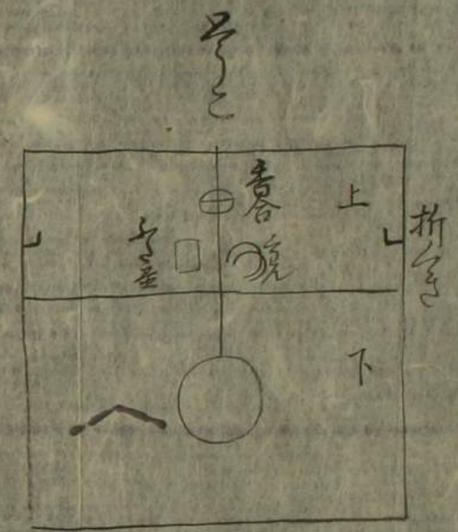
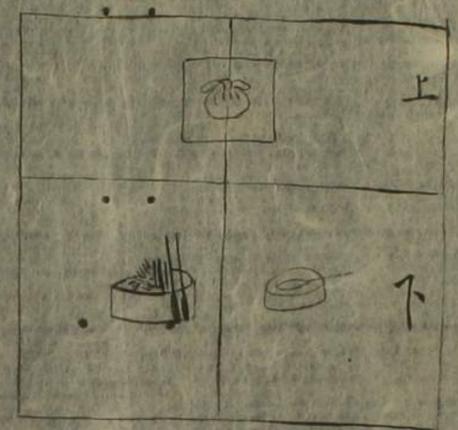
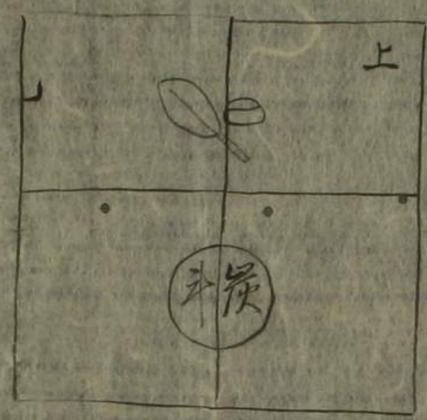
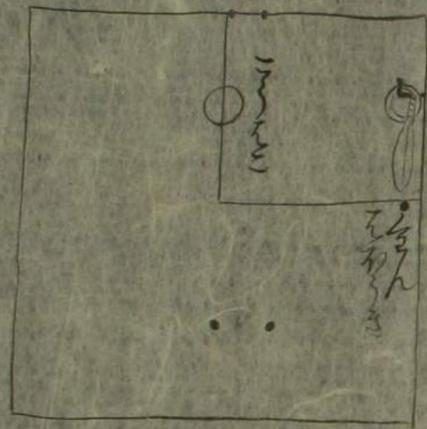




二部不

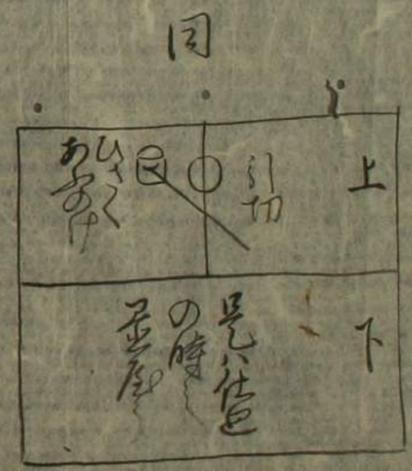
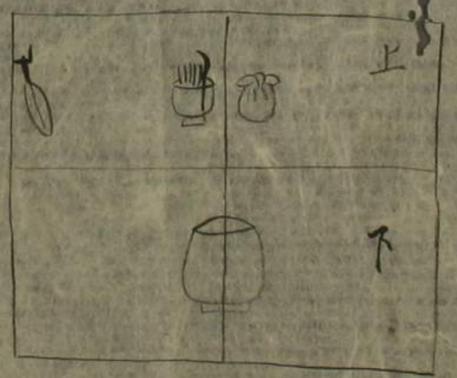
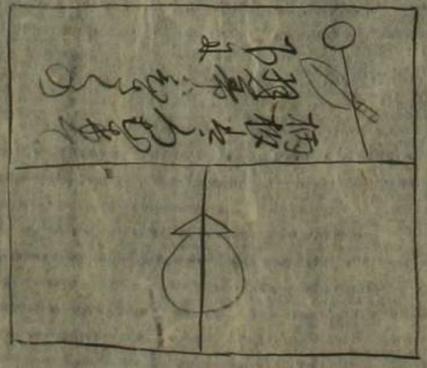
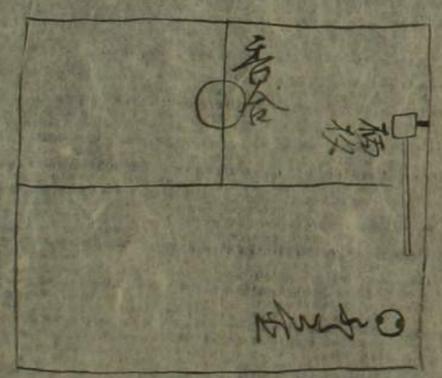


同



同

是ハ仕  
道



お茶又ハ茶盤茶入より取りまうも 均く  
こす人も何れも三ツも 茶合とて

三 茶と二文扱ひ事

時より茶と二文扱ひ事有し 昔より別れ  
れ茶より茶の新茶と古茶と 或二種  
を扱ひし時を二文扱ひとてし 時を茶  
合との扱ひ茶合の時茶入とて入るはた  
ハ茶合より袋にけ一程有るは袋にけ一入  
り何れハハ長き茶入と袋にけ一程一程  
大海り入し 加や二種茶入と遠り  
三 茶を茶合より別切茶なり

茶を茶合より別切茶なり  
炉の角とのま中より茶を茶合より  
炉此方より茶をけり 茶合より別切と  
茶より別切しけり 茶合より茶合より  
茶より向角より茶合より茶合より別切茶  
と茶を茶合細かき也  
茶を茶合に蓋茶合付を水一 方茶入と  
茶合一 茶合も後へ茶合より  
茶合より茶合より別切茶なり  
先門切茶付 茶合より茶合より 茶合より  
茶合より茶合より茶合より 茶合より

	茶 茶

茶	茶 茶

道々之茶圖

方より中へいけけを先<sup>ナ</sup>くつりきあしし  
門<sup>レ</sup>切も引<sup>レ</sup>きよ<sup>ル</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の居<sup>キ</sup>すま<sup>リ</sup>。ゆ<sup>リ</sup>、水<sup>ノ</sup>橋<sup>ノ</sup>の  
方<sup>に</sup>むね<sup>に</sup>り<sup>て</sup>、冬<sup>ノ</sup>よ<sup>の</sup>向<sup>に</sup>の居<sup>キ</sup>中<sup>ノ</sup>の袋<sup>ノ</sup>切<sup>の</sup>とき<sup>に</sup>ハ  
用<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の委<sup>細</sup>を<sup>あ</sup>し<sup>こ</sup>。

冬<sup>ノ</sup>の蓋<sup>と</sup>先<sup>の</sup>あ<sup>し</sup>よ<sup>の</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>ハ兼<sup>入</sup>先<sup>に</sup>す<sup>る</sup>ゆ<sup>に</sup>。

また<sup>も</sup>一<sup>つ</sup>炭<sup>の</sup>方<sup>に</sup>一<sup>つ</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>と<sup>志</sup>中<sup>ノ</sup>有<sup>る</sup>ゆ<sup>に</sup>。

お<sup>し</sup>、炭<sup>の</sup>方<sup>に</sup>一<sup>つ</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>のあ<sup>し</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の風<sup>ノ</sup>炉<sup>も</sup>同<sup>前</sup>に<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>風<sup>ノ</sup>炉<sup>の</sup>あ<sup>つ</sup>た<sup>の</sup>あ<sup>つ</sup>た。

志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の火<sup>ノ</sup>と<sup>志</sup>中<sup>ノ</sup>の火<sup>ノ</sup>と<sup>志</sup>中<sup>ノ</sup>の火<sup>ノ</sup>と<sup>志</sup>中<sup>ノ</sup>の火<sup>ノ</sup>と

こ<sup>の</sup>し<sup>の</sup>れ<sup>ら</sup>の<sup>あ</sup>炭<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

の<sup>あ</sup>し<sup>と</sup>内<sup>へ</sup>入<sup>る</sup>と<sup>志</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

このしのれらのあ炭ののあつたのあつたのあつたのあつた

志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の炭<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

口<sup>に</sup>木<sup>ノ</sup>柱<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

乃<sup>の</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の炭<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

乃<sup>の</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の炭<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

乃<sup>の</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の炭<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

乃<sup>の</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の炭<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

乃<sup>の</sup>志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の炭<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

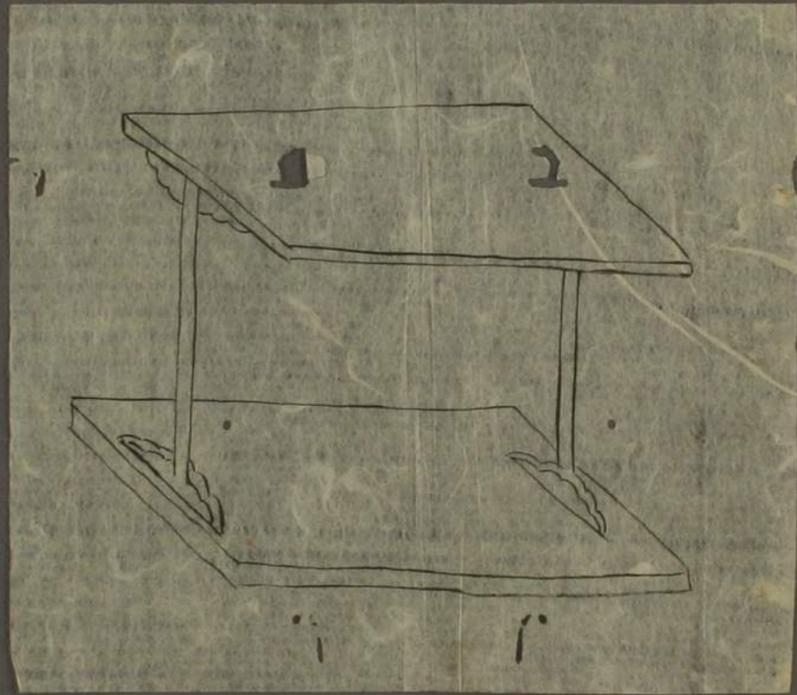
志<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の炭<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

水<sup>ノ</sup>橋<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

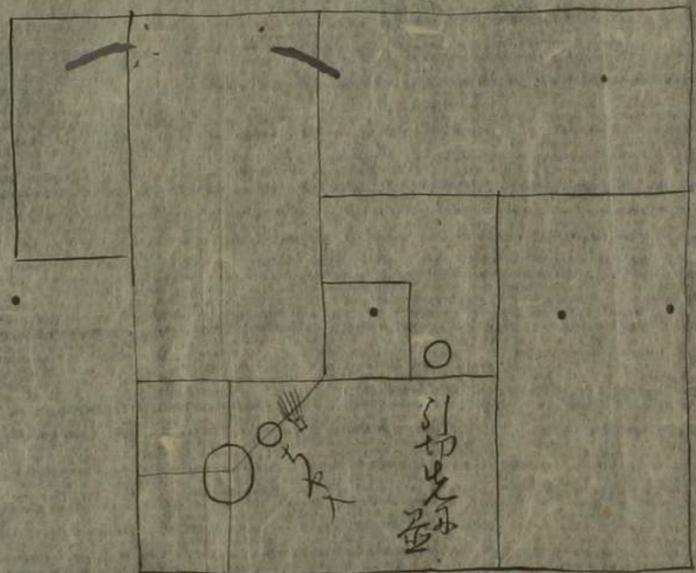
水<sup>ノ</sup>橋<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

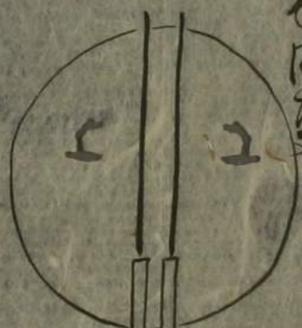
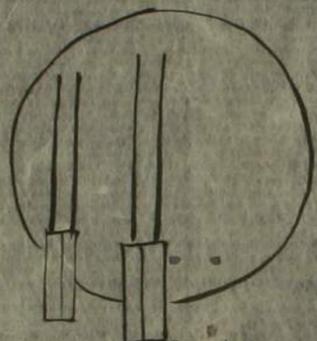
水<sup>ノ</sup>橋<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>の<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>。

五二



引切先子  
至正書





此器申めてをて一もて火無  
 するに炭取の図(有)こを  
 以て婦人

此器のいふ火無の先を  
 のせ器の先は指の好  
 りれをて方のをて  
 も同受

申めてをて  
 婦人

上

下

夫

春の事の子いふちいふあつては

志申し〜 肝めらり〜 八寸光緒柳の  
皮〜 糸〜 柳れ大小まり〜 鬼念持〜  
道〜 糸命を〜 糸命ハ〜 炭丸  
下〜 糸〜 門切〜 糸〜 糸  
音合糸乃時を〜 糸入〜 糸〜  
糸〜 糸〜 糸入〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸

口切糸との付〜 糸〜 糸〜  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸

湯漬〜 糸〜 糸〜 糸〜  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸

糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸  
糸〜 糸〜 糸〜 糸〜 糸











ま 炭はれ越向のり

炭の重湯はきくためし 花は重とんれ  
清浄とつりしわし炭しりやまめし  
これともれも炭を重とんれまわしや  
ありしりくたわしりやけし  
きんしりくたわしりやけし  
炭を重とんれしりやけし  
重湯のりやけしりやけし  
きんしりくたわしりやけし  
しりやけしりやけし  
きんしりくたわしりやけし  
しりやけしりやけし

えんしりくたわしりやけし  
しりやけしりやけし  
きんしりくたわしりやけし  
しりやけしりやけし

ま 炭はれ越向のり

炭を重湯のりやけしりやけし  
しりやけしりやけし  
きんしりくたわしりやけし  
しりやけしりやけし  
きんしりくたわしりやけし  
しりやけしりやけし  
きんしりくたわしりやけし  
しりやけしりやけし

夫禁中が利休経母と浄化の付家柄此の事  
経母と金下の事此の事と云ふ事  
経母の成え初めさうなだんころとありと云ふ  
よふに金取とありと云ふ事此の事と云ふ事  
そとと云ふ事此の事と云ふ事  
此の事と云ふ事

七九  
えりし利休茶湯の席の中上流の席と二ツは  
て金取の席の事此の事と云ふ事  
是又此の席の事此の事と云ふ事  
て茶湯と云ふ事此の事と云ふ事  
ハ茶通奥此の席の事此の事と云ふ事

何れも此の席の事此の事と云ふ事  
何れも此の席の事此の事と云ふ事

目録(一)金取の席の事  
何れも此の席の事此の事と云ふ事

ハ右御子の一事と云ふ事此の事  
右御子の一事と云ふ事此の事  
とも云ふ事此の事  
右御子の一事と云ふ事此の事  
下水の事此の事  
右御子の一事と云ふ事此の事  
乃云ふ事此の事  
此の事此の事

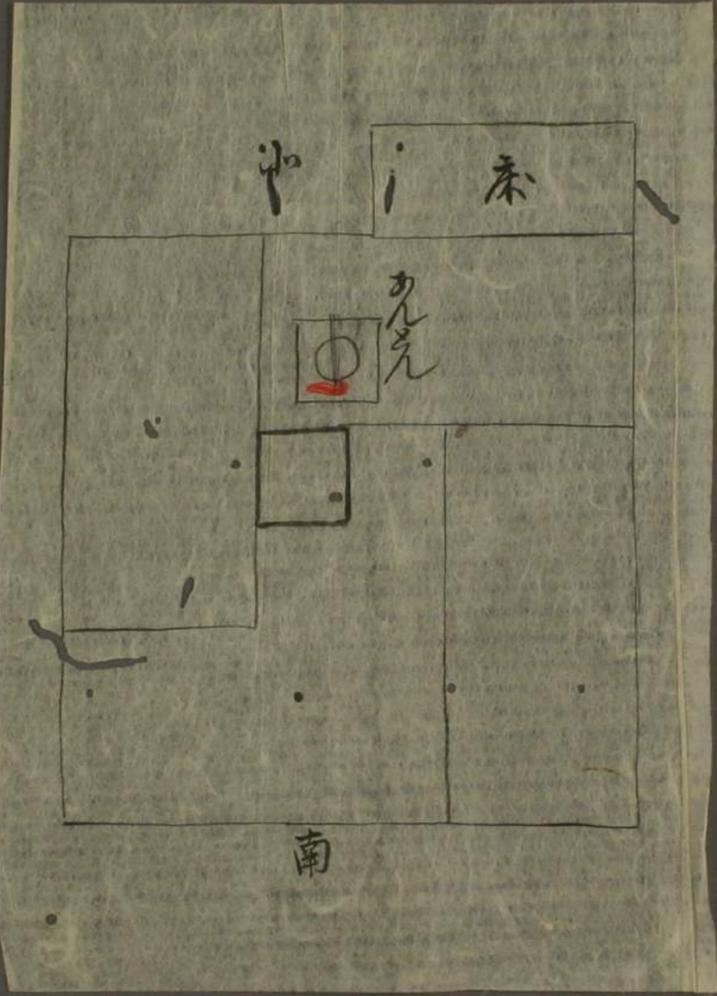
煎りし

全回礼を重と云津

右指の一事を先切し引き重と云津  
らうをれわさひらき一の言れ極ゆりの際節遠を  
し葉入葉冬と云の言れがあら節遠より重し  
葉入と云の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
葉入と云の言れ久る自由な小振の葉入  
をれぬと云の言れ一葉入と云と云  
重し一葉入と云の言れ先切し引き重と云津  
らの言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを

もくし引切れたれが からの言れ極ゆりの  
方の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
初葉入と云の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
久る一葉入と云の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
この言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
らんわりの言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
これ又は久の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
も葉入切れと云の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを  
用くし引切れたれが からの言れ極ゆりの  
方の言れ極ゆりを重し葉入大なるれを







茶やん茶合でもくるべかしくても  
大海の時茶客に大あれりいもも入  
りしきもゆるいりて茶いりしぬ  
茶松のまじりて茶松のまじりぬ  
すりてのち茶中人申も茶いりぬ又茶  
りし茶いりぬ茶いりぬいりぬ茶松  
茶いりぬ茶いりぬ大あれぬの  
いりしりかしくも茶いりぬのちりも茶  
風船あれぬ茶松の角も茶いりぬ印茶  
ぬりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
りりり茶いりぬいりぬ茶いりぬ

卒 為の茶久一の事

茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
相茶いりぬのちり茶松のまじりぬ  
ぬちのちり茶いりぬ茶いりぬのち  
茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり  
茶いりぬ茶いりぬ茶いりぬのちり



たのしき川うらやのあつたおとせ  
そくねをれあつたし又蓋設けあがり  
定ねんをいし柳ねんげう村あつたおとせ  
うらやうら

一 雨や伝舞をなれあつたし後よむさく  
あつたうら一のうらあつた又柳へあつた  
うら柳やうら初ねんくたのうらあつた  
右れうらあつたあつたあつたあつた  
のうらあつたあつたあつたあつた  
一 家は音ねんを蓋れ飛ねんやうらあつた  
也伝柳 丁うらあつたあつたあつたあつた

伝給の川柳あつたあつたあつたあつた  
集りうらあつたあつたあつたあつた  
柳使うらあつたあつたあつたあつた

川柳集

小ねんあつたあつたあつたあつた  
うらあつたあつたあつたあつた

玉歌  
集刺盛久

かきねんあつたあつたあつたあつた  
早あつたあつたあつたあつた

一 大ねんあつたあつたあつたあつた  
白いあつたあつたあつたあつた  
三十五



本

らー ぬり ぬり ぬり ぬり  
も 桶 へ 水 桶 の 湯

ぬり 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ  
も 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

ぬり 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ  
ぬり 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

ぬり 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ  
ぬり 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

本 一 葉 入 の 湯 を ぬり 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

本

こし 付 釜 の 湯 を 湯 も あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

葉 入 の 湯 を ぬり 桶 へ 湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

おい しい けい けい しい けい しい ぬ  
の 湯 も あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

こし

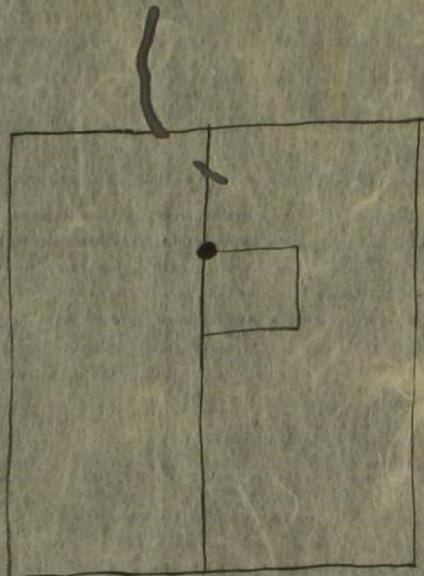
湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ  
湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

本 天 目 の 湯 を

湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ  
湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ

本 一 葉 入 の 湯 を

湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ  
湯 あり ても おい しい けい けい しい けい しい ぬ



此野を以て物ゆ  
あり一人ありて居  
る事しむ

第...人の内は少くたぬ茶中...茶...の柄...  
とのも...茶...の...のさ...ぬ...  
...の...茶...の...  
...茶...の...  
...茶...の...

一...茶...の...  
茶...の...  
...茶...の...  
...茶...の...  
...茶...の...

九十七  
...茶...の...  
...茶...の...  
...茶...の...

九十八  
...茶...の...

...茶...の...  
...茶...の...  
...茶...の...  
...茶...の...  
...茶...の...

九十九  
...茶...の...  
...茶...の...

昔ハ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 何レハ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 清國ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 葉陽ノヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 史ヨリノヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 百 香子ノ清國ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 高野ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 智也

東山ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 法相ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 二ツノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 又九ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 七ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ

風糖ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 一ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 風炉ノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 一ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 二ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 三ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 四ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 五ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 六ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 七ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 八ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 九ツノ前ヨリノ香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ

香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ  
 香爐ノ公利何也。前ヨリ香爐ノヤ





